

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 117 号
2021年 6月



「心浮々」(第 176 回半田山・スミレと春の林床植物観察会) 半澤りつ子

今回、半田山スミレと春の林床植物観察会に参加した。私は国見町出身。半田山はとても身近で、幼い頃、野山で遊んだ私は、何故か「半田山」と聞いただけで心が浮々。

植物を探したり、観察したりなんて事は一度もない。むしろ、ほとんど関心のない分野。ただ近所の子とケンカすると必ず「ハゲッペ半田山登ればツルツル」そして「お前のかあさんでベソ」と続くのだ。なんと品のない子供時代を過ごしたのだろう。しかし、今回スミレには沢山種類があることを知り、また、スミレの花言葉は「何事にも控えめで相手を大事にする事」とある。小さな植物だし、ひっそりと咲くイメージはある。しかし一方で、春を彩る主役の一つでもある事は確かだ。スミレのこんな姿を生きていく参考にできたら素晴らしいだろう。

最近では自分の庭の草花を観察する自分に気づく。一つの例はアメリカまゆみの開花に驚いた。それは後程



タチツボスミレ



オオタチツボスミレ



アケボノスミレ



スミレの観察

に……。もう「ハゲッペ半田山……」は小さい時の思い出の一ページとして心深くしまい込んでおこうと思う。懐かしい半田山でした。



イカリソウ



コンロンソウ

虎捕山ブヨメキ湿原観察会に参加して 関口静子



虎捕山山頂直下にて

「わあ、困った。大変な会に参加してしまった」と駐車場から歩いて数分の所での私の叫びでした。Mさんとおっしゃる方が木や花々の説明をされるのですが、その名前を書き出すだけで精一杯なのです。少しずつ登っていくと沢山の車が見えてきました。そして、その付近を伐採する方々の多いことに驚いてしまいました。その一帯を整備し、桜などを植えるようです。今度訪れた時は、きれいな一面になっているのだろうと嬉しく思い、その時は作業する人間の側でいました。

少しすると、水芭蕉が現れてきました。やっと私の知っている花にホッとしました。虎捕山へ向けて歩き出しました。前を歩く方から「さっきのアオダモ……」と足元を指し示しましたが、私には沢山の枯れ枝ばかりで何のことやらと思い歩き出しました。今度はまたその方が、アオダモの枝を拾って皮の下の青い部分を見せてくれました。なんときれいな青い色なのでしょう。自然はすごいなあと感じました。

山頂に着き、その付近の絶景を見に行かれる方々がいましたが、1時になり、下山です。少しずつ心のゆとりができたのでしょうか。Mさんの木々、植物だけでなくそこに生活する動物たちの話に心温まる思いがしました。

少しですが、地面や木々を見わたせるようになりました。先ほどの伐採の場所に着いた頃には「なんでこんな広範囲に伐採してしまうのだろう」と今度は皆さん側にいる気がしました。そして最初に出会った切られた木を見て「残念



皆伐作業中でした

だったなあ」と思う自分がいました。

みなさんのレベルになるまでもう少しお待ちください。



ミズバショウより珍しいカムムリタケ



この足跡の主は・・・



エゴノキタケを観察

石田ブヨメキ湿原周辺の環境保全についての県自然保護課への質問と回答

湿原周辺の自然林の皆伐作業やクリンソウ植栽等、県自然保護課に石田ブヨメキ湿原の環境保全に関する質問をしました。これに対する自然保護課の回答は以下の通りです。なお、オキナグサについては、県自然保護課の現地調査の結果、植栽ではなく自然発芽の可能性が高いとの回答がありました。

最初の質問

当会では自然林の観察会と山岳登山道保全ボランティアに取り組んでいます。昨日、当会の175回観察会として石田ブヨメキ湿原自然環境保全地域で観察会を実施しました。丁度、石田合同所有林野管理会での整備作業が行われていましたが、指定区域内の急斜面およびその周辺の2次林を皆伐していました。また、保全地域内にクリンソウも植栽されていました。この作業についてしかるべき行政指導はされているのでしょうか。また、絶滅危惧種オキナグサの植生も確認しましたが、県は確認しているのでしょうか。もし確認されていたらその対応についてお伺いします。

県自然保護課からの回答

1. 石田ブヨメキ自然環境保全地域の現地確認を行い、自然環境保全地域外～普通地区内の範囲で皆伐が行われていること及び普通地区内でクリンソウの植栽が行われていることを確認いたしました。これらの行為については、福島県自然環境保全条例上、許可等手続き不要です。
2. この地域については、平成29年度に石田合同所有林野管理会より木竹の伐採に関する許可手続き要否に係る相談が県出先機関になされており、自然環境保全地域外～普通地区内で作業が行われることを確認した上で、手続き不要である旨の回答がなされております。
3. 絶滅危惧種オキナグサが現地で植生していることについては、今のところ県では確認しておりません。

再質問

以下の回答を確認いたしました。ご回答いただきありがとうございました。

1. 現地確認の結果、皆伐作業、クリンソウ植栽はすべて指定区域外であることを確認したこと
2. 作業に前もって事前確認があり、許可したこと
3. オキナグサの植生については未確認であること

ご回答いただいた点について再度、質問をさせていただきます。

1. 現地の看板では指定区域が分かりにくいです。指定区域を示した地図をお送りいただければ幸いです。また、現地の看板は古いので架け替えをご検討いただけますと幸いです。
2. 事前確認の際に、伐採作業について指導はなかったのでしょうか。指定区域外については民有地につき、利活用は自由との認識でしょうか。伐採地は杉植林地であったと推察していますが、皆伐によりノイバラが繁茂し、カエデ、コナラ等の自然林を構成する樹木や草本植物の再生を阻害していることは明らかです。また、近年の豪雨災害の観点から、現状の皆伐は非常に危険な状況と考えます。間伐を併用した利活用等について指導があってもよかったですように思います。
3. オキナグサについては、確認していないとの回答ですが、私も確認しています。植生地は指定区域外です。絶滅危惧種であり、もし、これが自然植生であればミズバショウより植生保全の緊急性は高く、自然保護上、指定対象植物と指定区域の拡大の検討が必要と思われるのですが、いかがでしょうか。

県自然保護課からの回答

【佐藤様メール冒頭部分へのお返事】

- 1についてですが、皆伐作業は、自然環境保全地域外から普通地区内(自然環境保全地域内)の範囲で、クリソウの植栽は、普通地区内で確認しております。普通地区内では、木竹の伐採や植栽行為は福島県自然環境保全条例上、届出が必要な行為とされていないため、届出不要となっています。
- 2についてですが、「作業に前もって事前確認があり、許可した」ということではなく、作業範囲を確認した上で「手続き不要との回答をした」ということとなります。

【佐藤様メール追加ご質問部分へのお返事】

- 追加質問1について、区域図を別添にてお送りいたします。特別地区は湿原内となっております。看板についても、御意見いただきありがとうございます。現地確認の際も、相当年数が経過しているものもございましたので、架け替えについて今後検討をしております。
- 追加質問2について、平成29年度当時は伐採の作業範囲が石田ブヨメキ自然環境保全地域にどのように重なってくるのかを確認の上、判断しております。自然環境保全地域内であれば、民有地であっても、規制を受ける場合がありますが、今回の伐採は自然環境保全地域外から普通地区内という範囲での作業であったため、届出不要となっております。
- 追加質問3について、御意見いただきありがとうございます。自然環境保全地域の指定には、条例及び規則に基づくいくつかの指定要件(自生していること、最低面積等)を満たした上で、当該自然環境を保全することが特に必要であると認められることが必要となります。

県自然保護課からの最終回答

作業地が自然環境保全地域外である場合や、地域内でも条例上規制がない区域である場合は、行為を禁止することはできませんが、福島県自然環境保全条例に定める目的を達成できるよう、いただいた御意見にも留意しつつ、引き続き指導・助言等を行ってまいります。



身体のものさし5 ～身体の前向きな営み～ 土井 昇

梅雨時の蒸し暑さの中、義妹が下痢をして体調を崩した。冷房をかけていたというので身体を温めるよう話したが、二日後も体調はすぐれない。調べてみると胃の経が虚(不足)している。冷えから胃酸過多にはなるが胃虚にはならない。ふと「春の下痢は首を弛める」のを思い出し、首を回してもらおうとずっと強張っていた頸部や肩回りが楽になっていた。冷えではなく眼の疲れでしょうと告げると、洋裁の趣味に没頭して何時間も細かい作業をしていたようだ。

腹部の不調には真っ先に足趾(指)回しをする。食べ過ぎや冷え、あるいは腹部内臓疾患の人にも効果は実に素晴らしく、誰にでもできるシンプルな点が特徴だ。左足から右足へ、十本の趾(指)を回していくと腹部の動きが戻って音がしたり、深い症状が消退してしまう。その後、胃の経を手当てして、最後に左眼と肝臓部への愉氣をしたら「お腹がすいてきた」。

冬には身体の運動が少なくなり、神経系統がよく働く。春になって身体が動き出す頃に、状態の緊張が抜けない人は調子が出ない。眼は神経系統の代表のようなもので酷使を続ける人に下痢が起きる。腹が空っぽになると水落ちの動きや呼吸の幅も戻ってくる。頭や肩首にのぼって抜けなかった緊張が弛んでくる。あたかも悪いことが起きたと思いがちだが、身体は決して無駄をせず自己調整をしていると話す「嘆くことないんだ」と明るい顔になった。

中医学では、春は肝の働きによって生ずるとある。肝臓は血液を貯蔵する所で、冬の間消費しすぎると肝が働けず、内臓(植物では根に相当)が委縮する。単位面積当たり、眼は脳の3倍の酸素消費と10倍の血行が必要とされている。陽射しが春めいたら身体も同調し始める。年が明けたら眼をいたわり、身体と心が開いて広がるようなイメージを持ちたい。

胃腸の働きが充分でないため未消化なものが腹にたまるものを身体は処理した。肝臓の調整と整体では呼ぶが、眼の疲労から波及した季節的な不具合を一気に調整してしまったのだ。症状としてしか見ていると何度も繰り返すことになる。しかし、覚えておきたいのは内臓の不調を招いても身体はそれを察し、常に状況を打開しようと前向きに働いているという事実だ。



前へ

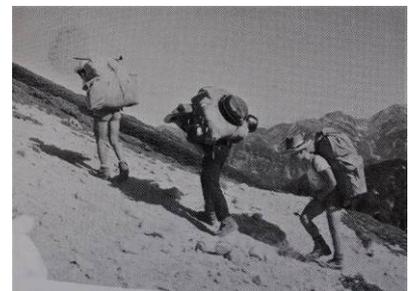
思えば昨年の夏は山へよく出かけた。例年なら高山植物の咲く頃のお花畑へ、秋の森の紅葉や湿原の草紅葉を愛でにと年に一二度山歩きをするのがせいぜいだったが、なぜか去年は真夏の暑い盛りの山に六度も登った。それはきっと今日ならまだ登れそうだが、ひょっとすると明日は体力気力ともに萎え、もう登れなくなるのではという強迫観念に駆られて、自分を確かめるかのように苦しさに喘ぎながら山に出かけたのかもしれない。近頃山の支度をしながらいつも思う、これが最後の山行かなど。そしてやっとの思いで頂上にたどり着くと、ここへはもう二度と来られないだろうなと思いつつ、頂を何度も振り返りながら後にする。私は山歩きができなくなった時がわが人生の終着駅だなどと、自分で勝手に思い込んで去年は切ない悪あがきをしたのかもしれない。老(現実)とはなんとやるせないものか。

ところで、はなしは変わるがいま履いている登山靴は十年ほど前に、私の小さな足に合うサイズの男物がなく、仕方なく女性用の靴を妥協して購入したものだ。これが最後の靴になるのかなと思いつつ・・・そんな山靴の底がすり減って大分薄くなってきた。買ったときには、自分にその登山靴を履きつぶせるほどの時間が残っているなどとは考えなかったのだが、意外に体力が残存していたようだ。もう一度新しく買い換えた方が良いのか、それとも今からでは無駄になるのではないかと迷っている。この山靴は五代目で一代目は中学生の頃の布製の軽キャラバンシューズだったが、高校生になると山で出会った山男たちが履いている、革製の登山靴がうらやましく、父親にねだって登山用具店で本格的な登山靴を買ってもらった。靴底はイタリア製のビブラム底になっていて、テント場で靴を脱いだ時などに、それを目立たぬように皆にチラリと見せながら、手入れには靴クリームではなく保革油を丁寧に塗るんだ、などと解説したりして靴底をそれとなく見せびらかしたりした。



革の登山靴

今思うと自分はなんと鼻持ちならない嫌な奴だったことや、思い出すだに顔が赤くなる。私はそう頻繁に山へ登ったわけではないが、それでもその靴には三十年以上も一緒に山行に付き合い合ってもらった。その間靴の中敷きは何回も擦り切れ替えたが、靴自体はびくともしなかった。結局こちらの体力が劣へ弱ってきて、頑丈で重いその山靴を使いこなすことが苦となり持て余し、新しい登山靴に浮気をしてしまった。そしてその新しい靴の使い勝手のよさと履き心地のよさに負けてしまい、私は旧友をとことん裏切ってしまった。さすがに自分ではできずに、靴箱を大きく占拠するそいつを邪魔もの扱いしていた家人に処分するよう依頼して、その後は私の前から消え去った山靴を忘れたふりをして、新しいパートナー(靴)と一緒に山に出かけて行った。今思うとなんであんな重い登山靴を履いて登っていたのだろうと疑問に思い、随分体力を消耗させられたようにも感じるのだが、親父と一緒に登山用品の店に行き買ってもらった山靴にわが相棒となってもらい、一緒に登った山での数々の青春の思い出は、今でも私の心の中に大切な宝物として残っている。現代では登山用具のすべてが軽量で強靱に改良され、誰もが快適に山を楽しむことができるようになった。



キスリングと革登山靴があればこそ

ところでいま私は靴と一緒にもうひとつ迷っているものがある。それはカメラだ。やっぱりこれが最後と思って十年ほど前に手に入れたのだが、近頃このカメラも疲れてきたらしい。五回に一回ぐらい写りの悪い写真になる。デジタルカメラはフィルムカメラと違い気に入らない写真はそのまま消去して、もう一回シャッターを押せばよいだけなのだが、どうも気持ちがスッキリしない。私は靴やカメラとまるで競争しているような気分になってきた。いつまで山に登れるものか、山の道具たちと賞味期限の切れかけた私との耐用年数、使用期限の競争をしているようだ。そんな気持ちを家人に話すと「山には行きたいと思ったなら行けばいいし、行って途中で疲れたなら帰ってあげればいい。もうダメだと思ったなら山登りから引退すればいいだけのはなし。ただそれだけの事。なにも思い悩むことではない、靴だってカメラだって欲しいなら新しいのを買ったらどうですか」と簡単にあしらわれてしまった。女性の思考はドライで短絡的だなどと思いつつも、最近私はなるほどそんな生き方こそが真理なのかもしれないなど、わが家の裏の畑から雪の残った安達太良山を眺めて想う今日この頃である。

東北ブナ紀行（77）

奥田 博

先日「絶望の林業」（田中淳夫著 新泉社）という後ろ向きなタイトルの本を読んだ。官邸主導の「林業の成長産業化」が、いかに森林の公的機能を奪い、それによって日本を災害に対して脆弱な国にしてしまうか、いかに子孫にとり返しのつかないツケを回すことになるかを多くの事例で示している。取付き難い用語を調べながら読み進めると、絶望から希望の提案が出てくるのだが、果たして林業関係者も含めて変わるか？

118) 三方倉山（さんぼうくら）971m

三方倉山は、大東岳の南側、山麓から眺めると端正な三角形の山容を見せている。三方とは山の周辺を表し、倉は岩場を表す。その岩場を避けながら登山道は開かれているが、山頂までは急坂の連続となる。その急坂にブナ林が広がる。

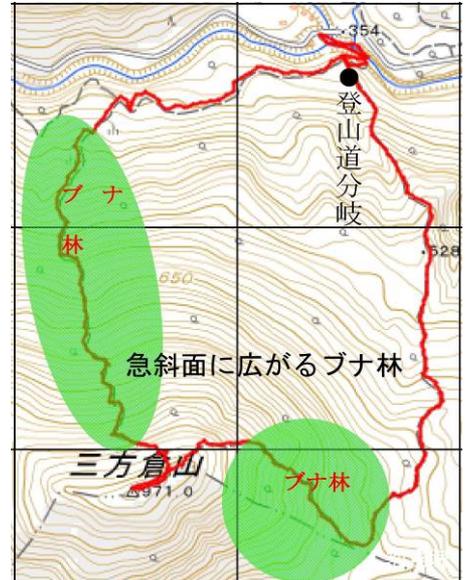
二口林道脇の駐車場から名取川源流のナメ滝を渡って登山が始まる。南に向かう道は「ブナ平方面」の道標に従う。道は普通の登りで、登った際にはブナの実がたくさん落ちていた。やがてブナ平となり、休憩ポイント。



急斜面には見事なブナが続く

いよいよ急坂が始まり、太いブナも所々に見られるが、急坂に加え足元も悪いので眺める余裕がないかも知れない。穏やかな登りに変われば山頂到着となる。山頂からの下りも急坂の連続で、気が抜けない。中間部を過ぎると周囲の森を眺める余裕が出てくるが、メインは急斜面途中だ。やがて平坦な道になれば、登山口分岐へと戻ってゆく。

コースタイム：登山口（2時間30分）山頂（1時間20分）登山口



119) 笹谷古道 プラス 仙台神室岳 1356m



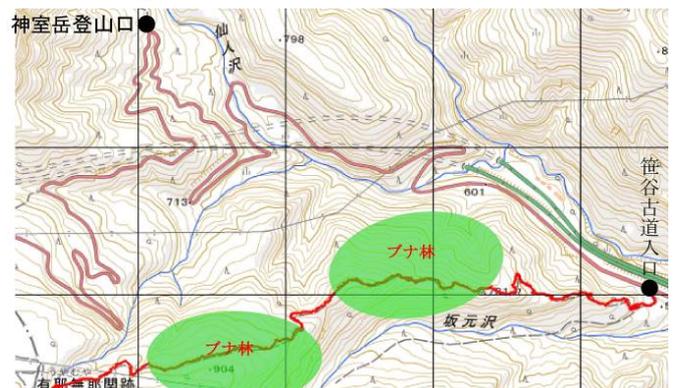
太いブナは、何を見てきたのだろうか

かれていた厳しい峠道であったことがうかがわれる。峠道には時代を見てきたようなブナの大木ばかりでなく、トチノキの大木、天保14年と刻まれた馬頭観音、「函水」と呼ばれた人馬が喉を潤した水場、そして有耶無耶の関など見どころ満載の峠道だ。

コースタイム：国道入口（1時間30分）有耶無耶の関（1時間10分）国道入口

笹谷街道・国道286号線から神室岳に登るには仙人沢出合から歩き出すと尾根に載る迄の間にブナが見られるが、上部では大きなブナには会えない。そして何より国道286号線は不通になることが多いのが難。

あまり知られていないが、国道286号線の南側に笹谷古道として遊歩道が整備されている。尾根を有耶無耶の関跡までは、時折見事なブナが見られる。入口には笹谷古道の解説が建っており、南北朝時代から歩



吾妻・安達太良花紀行 85

佐藤 守

ミヤマコゴメグサ (*Euphrasia insignis* ハマウツボ科コゴメグサ属)

吾妻連峰の亜高山帯の砂礫地に植生する1年草、種子で冬を越す。日本固有種。ミヤマコゴメグサの変種にホソバコゴメグサとマルバコゴメグサがあり、いずれも飯豊山に植生する。これら3種は主に日本海側に分布の中心があり、ミヤマコゴメグサ群としてまとめられている。他に太平洋側に分布するコバノコゴメグサ(ヒメコゴメグサ)、高原に植生するタチコゴメグサなどがある。吾妻連峰ではミヤマコゴメグサのみ確認されている。

葉は対生で葉柄は極めて短い。茎は赤紫で直立し、時に分枝する。茎の表面には下に曲がった白毛があるが、腺毛はない。コバノコゴメグサは腺毛がある。葉身は多肉植物の様な肉感があり、光沢がある。葉形は倒卵形で先端部は2~6個の大型の鋸歯があり、葉や鋸歯の形状は着葉部の位置により異なる。鋸歯は下部で丸みを帯び、上部で尖っている。実生により葉の形状は個体差があるものと思われ、ホソバとマルバとの区別が困難な個体がある。一般的に最上部の葉群の形状が変異種の特徴が明瞭である。

花は腋性、上部の葉の葉腋に1個の合弁花を着生する。花冠は短毛に覆われる。2唇花で上唇はかぶと型である。下唇は上唇より長く3裂し、各裂片の中央部は窪む。中央裂片には黄色い斑紋と長毛がある。黄斑は上唇の雄しべ着生部にも見られる。雄しべは4本で2本が長い。葯の色は茶色。雄しべの上から雌しべの花柱が伸び葯の先に垂れ下がる。花色は白色であるが、個体により上唇が淡紫色となる。

高山に咲く花でミヤマコゴメグサが一番好きという知人。コゴメは会津弁のコメラと似た響きがあり、記憶に残った。まもなく地蔵岳を経由して飯豊山に登った。コゴメグサの群落に度々遭遇し、確かに可憐で美しいと納得したが、同定はだいぶてこずった。それから、しばらくして登った吾妻山でミヤマコゴメグサを見つけ吾妻山系では群落が少ない貴重な植物であることに気付いた。結実しないと世代が続かないので踏み付けないように十分気を付けたい。



ミヤマリンドウ (*Gentiana nipponica* リンドウ科リンドウ属)

吾妻・安達太良連峰の湿原周辺の草地に植生する多年草。日本固有種。吾妻・安達太良連峰に植生するリンドウの間ではエゾオヤマリンドウと並んで最も標高の高い山域に分布し、夏の湿原を飾る代表的な高山植物である。同じく高山に自生する小型のリンドウにはイデリンドウとタテヤマリンドウがある。イデリンドウは偽高山帯の砂礫地、タテヤマリンドウは高層湿原で群落を形成する。

葉は十字対生。茎は匍匐し、先端部の数節が立ち上がる。根生葉は花の時期にまでに枯れる。茎葉は厚く光沢がある。葉形は倒卵楕円形で先端は尖る。鋸歯は無い。葉は茎の両側に横向きに開く。タテヤマリンドウは葉が平開することはなく茎を包む。

花は頂生。立ち上がった茎の先端に合弁花を咲かせる。花は5数性を示す。花冠はラッパ状で開放部は5裂し、各裂片の間に副片がある。副片の先は不規則に切れ込む。花冠裂片は花筒部より短い。開花時には裂片、副片ともに平開する。雄しべは5本で葯は赤紫色である。雌しべは2個でそれぞれの柱頭が反対方向に屈曲する。雄性先熟で雄しべが花粉を出した後に雌しべの花柱が伸び白透明の柱頭が現れる。花筒内側には白い円形のぼかしに囲まれた緑色の斑点が散らばる。タテヤマリンドウは青紫や赤紫色の明瞭な条紋が縦に走る。また、ミヤマリンドウの変種イデリンドウは副片が平開せず立ち上がる。

夏の高山植物は、開花期間が短く、積雪量の多少により花の時期がいつもの年より大きくずれ、見頃を逸してしまうことがある。その中であって雌雄異熟のミヤマリンドウは開花期間が長く、初夏から晩夏まで花が楽しめる。また、茎が匍匐するので環境が整えば、お花畑を形成する。そこは緑の絨毯に紫青色に輝く星を散りばめたようである。



第177回自然観察会案内：ラクダ山の高原植物観察会

日時：2021年7月4日（日）8：00～16：30

集合場所 四季の里正面入り口駐車場（あづま橋側） 集合時間 8：00 参加定員 20名

内容 高湯不動沢登山口からラクダ山に至る登山道の1523mピーク（中天狗）まで、ブナ林から亜高山針葉樹林帯の高原植物を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（500円）、申し込み：7月2日（金）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。

不動沢登山口駐車場に、直接行かれる方は申込時にお知らせください。

第178回自然観察会案内：中吾妻ブナ林の紅葉観察と芋煮会

日時：2021年9月26日（日）8：00～16：00

集合場所 四季の里正面入り口駐車場（あづま橋側） 集合時間 8：00 参加定員 20名

内容 中津川溪谷レストハウス駐車場を起点に中吾妻中腹のブナ林まで散策し、自然林の紅葉を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、食器

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（500円）、申し込み：9月24日（金）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。

中津川溪谷レストハウス駐車場に、直接行かれる方は申込時にお知らせください。

当初予定された二十日平は遊歩道が廃道となっていたため、コースを中吾妻ブナ林に変更します。

西大巔登山道誘導ロープ設置ボランティア実施報告

6月14日（月）に西大巔水場から樹林帯までの誘導ロープ設置作業を実施しました。参加者は一般応募者6名、東北ガイド協会2名、環境省裏磐梯自然保護官事務所1名、高山の原生林を守る会2名でした。当日は雷の予報が出ており、短時間で作業を終える必要がありました。30～40歳代中心の脚力は素晴らしく、出発してから2時間30分ほどで水場に到着しましたが、大きな雷鳴が響いたため沢にしばらく避難後、作業に取り掛かりました。設置作業は1時間足らずで終わりました。昨年の参加者が4名いたことが、功を奏しました。ゆっくり登山の主催者はすっかり置いてきぼりの形になり、作業場についた時はすでに作業は終わっていました。今回は、一般公募の成果が顕著に表れたと思いますが、主催者との脚力差は歴然で次年度は運営面での工夫の必要性を痛感しました。最後に、悪天候の中、作業に参加していただいた皆さんに改めて感謝申し上げます。お疲れさまでした！！（MS）

[ボランティア作業の様子はなすびさんのTwitterをご覧ください]



振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第117号 2021年6月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188（夜間7時～9時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（1000円）を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田